

病気のおかげでほんとうに
大事なことに気づきました。
だから今は、病気になった
ことにも感謝しています。

福井教会 井上有花さん

井上有花さんは、長年に渡るストレスで、精神の病氣「解離性障害」となり入院してしまふ。生きていることの意味さえ失い、出口の見えない暗闇の中をさまよっている時、担当看護師の献身によって次第に心が開かれていく。そして、看護師と交わした交換日記の中にあつた「感謝を持ちましよう」という言葉に、どんな時も愚痴をこぼさず自分を支え続けてくれた夫の存在に気づかされる。その後退院し、夫と子ども3人に囲まれる普通の生活に戻り、少しずつ自分を取り戻している。有花さんは、「病気はつらかったけど、ほんとうに大事なことを教えてくれた」と心から掌を合わせる。

生きていく 意味

お釈迦さまは「人生は思いどおりにならないのですよ」と説かれ、「思いどおりにしたいと思うその心が苦しみや悲しみのおおもとで、真理を悟れば、苦を離れて自由に生きられますよ」と伝え続けられました。そのお言葉が、人によっては冷たく聞こえることもあったでしょう。けれども、それが本質的な救いとなり、多くの人が真の安心を得てきました。

どれほど大きな苦難を前にしても、真理をしっかりと自覚するならば、人は必ず前に進むことができます。苦を見つめ、そこにはたらく真理を悟っていく。それは厳しいことかもしれませんが、いつまでも人に頼つて生きていくわけにはいきませんから、つまり各自一人ひとりで真理を会得することが大切なのです。

立正佼成会